

2025(令和7)年度 青丘学院つくば中学校自己評価表

目指す 学校像	激しく進化・変化する社会の流れに対し自ら考え、適応できる人間力を育てる学校。 日本語・韓国語・英語の三か国語を自在に使いこなせるようにし国際的に活躍できる、ひいては日韓交流の掛け橋となるグローバルな人材を育てる学校			
三つの方針	具体的目標		評価	次年度への主な課題
「三つの 方針」 スクール ポリシー	「育成を目指す資質・ 能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自己のアイデンティティを尊重する礼儀正しく、高い道徳心と克己心を備えた人間の育成。国際的にも活躍できるバランス感覚の優れた人間力の育成		自己理解を深めさせる幅広い意識づけが必要である
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	教育課程を基に基礎学力から応用力を育成し、自ら課題を見つけ解決できる探究心を育て、将来の進路希望を実現できる基礎を養う。		生徒個々の基礎学力を更に高められる対応が必要である
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミツション・ポリシー)	視野が広く、諸外国の文化理解に積極的であり、かつ自己の進路実現に対し能動的に行動できる生徒		県内の学校への多放免的な広報活動が必要である
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
		1 生徒の主体的な学習を促す 授業による「学力」の向上	(1) 生徒個々の学力・進路希望に応じて適切な指導を行う。 (2) 教員の指導方法の工夫・改善を図り、分かりやすい授業を展開する。 (3) 英検や漢検、TOPIK、JLPT等の資格取得を通して実践的な学力を高め、進路希望を実現する。	
		2 進路希望の実現 多様な進路選択をサポート するきめ細かい指導の充実	(1) 民間検定試験などを計画的に実施し事後指導も適宜行う。 (2) 将来の職業選択や進路実現に必要な研修機会を作る。 (3) 人生設計力を育て生徒の視野の拡充と意欲を高める。 (4) プレゼンテーションの積極的参加を促し発出力を高める。	
		3 基本的生活習慣の確立と 規範意識の定着	(1) いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。 (2) 情報を共有し生徒が孤立しない環境づくりに努める。 (3) 学生寮と連携して基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (4) 教員は人権に関する認識を深め、生徒の人権を尊重する。	
		4 特別活動、HR活動、各種行事等の主体的参加を促し、 学校生活を豊かにする	(1) HR活動を通して集団の一員であることに誇りをもたせる。 (2) 特別活動や各種行事を通して帰属意識の養成を図り、自己の存在意義を涵養させる。 (3) 各種活動を活発化させ、自己肯定感を高めさせる。	

学校評価項目

令和7(2025)年度用

中学校用です。

	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
中学1年	豊かな人間関係を形成するため、基本的な生活習慣を確立させる。	1. 朝礼と終礼を通じて、思いやりの心を育成させる。 2. 挨拶と丁寧な言葉遣いを励行させる。			
	基礎学力を向上させる。	1. 種々の教材を通じて基礎学力を向上させる。 2. 予習復習を徹底にさせて、授業の大切さを認識させる。			
	正しい価値観を持つように育成する。	1. 道徳教育を通じて他者との適切な関係性を築くように指導する。 2. 正しい国家観と道徳観を持つように指導する			
中学2年	基本的な生活習慣の確立	学校・寮でのふさわしい挨拶、言葉遣い、服装頭髪などができるように指導。 保護者との連携で生徒の個性を把握し、悩みや問題を早期に解決できるように努める。			
	基礎学力を向上	規則正しい生活をもとに授業の大切さを認識させ、集中することにより学力の向上を図る。			
	人間関係を築く力の育成	LHR、道徳、特別活動を通じて、多様性を感じ取り、自分の成長と共に人との関わる力を養う。			
中学3年	社会で求められる規範意識の定着を図る。	HRや道徳の授業などを通じて、他者を思いやる心や社会性を育むための指導を行う。			
	自主性や協調性を育てる。	LHRや総合的な探究の時間などに、生徒が主体的・協働的に取り組めるような活動を取り入れ、発展的な学習を促す。			
	学習指導・進路指導の充実を図る。	二者面談や三者面談などを通じて生徒理解に努めるとともに、一人ひとりのニーズに応じた学習指導・進路指導を行う。			

教務部	教育業務の円滑化を図る	各教員・各分掌との連携調整を行いながら、年間行事計画を作成する、各学年の目標を作成する、合的な学習の時間・総合的な探究の時間の目標を作成するなど学校運営が円滑に進むよう環境づくりに努める。			
	教員の教育力の向上を目指す	最新の教育事情について周知し、それに沿って指導計画(シラバスなど)の作成・評価を行う、研究授業の実施、外部の講演会・研究会への参加を行促す、公開授業(内部・外部)を行う等の試みを通して教員の質的向上に努める。			
	生徒にとって効果的な成績評価を行う	わかる授業・個に応じた指導など、授業の改善を図るとともに観点(学習の3要素)を明確にして、評価が適切に行われるようにする。生徒の実情(言語など)に配慮した評価が行われるよう教員間で共通理解を得る。			
総務部	各式典を滞りなく実施する	入学式・卒業証書授与式は前もって綿密な計画を立て、役割分担に基づいて実施する。始業・終業式では節目となることを意識して厳粛に行う。			
	各行事を滞りなく実施する	各種行事は前もって綿密な計画を立て、対外(講師等)交渉を含め役割分担に基づいて実施する。			
	奨学金業務を遅滞なく行う	必要とする生徒に対し、告知から授与決定まで順を追って確認しながら行う。			
入試募集部	年間募集計画に従って募集活動を行う	学校案内作成・学校訪問及び塾訪問計画・説明会等を計画的に実施する。			
	志願者及び入学者の増加を図る	受験生世代に如何にしてアピールし、認知してもらえるか種々試行する。			
	募集担当の役割に従った募集活動を行う。	学内説明会は原則全員で行う。外回りは試験中を利用し全員が行う。			

生徒指導部	いじめ防止対策の徹底	生徒との日常のコミュニケーション、面談、アンケート等を定期的に行い、いじめ未然防止に努め、いじめが発生した際は、早期発見、早期対応できるよう組織的に迅速な対応に努める。			
	関係機関との連携の強化	警察、保健所、その他関係機関との連携を強化し、交通安全指導、薬物乱用防止指導、情報モラル指導、AED講習会等の充実を図る。			
進路指導部	生徒の進路実現を図る	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人のキャリア発達を促す。各学年と連携してで、生徒の適性の把握に努めるとともに生徒との進路相談等を実施し、生徒の進路実現を支援する。			
	適切な進路指導を目指す	進路研究会や進路情報交換会に参加し、進路情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に進路情報の提供を行う。 大学説明会や進路研究会等に参加することで、各大学の入試の変更点や新課程入試等についての情報を収集し、生徒・保護者に提供する			
	各大学の情報を収集し生徒・保護者に情報を提供する	大学合格者数等進路大学合格者数等進路に関する統計をもとに進路要覧を作成することで、本校の進路状況を生徒・保護者に提供する。			
	学校年間計画の作成 心身の健康管理能力の育成 防災・避難訓練の充実 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身に付けさせる。	保健管理、保健教育、組織活動の項目に分け作成する。 定期健康診断や保健学習を計画的に実施する。 心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする意欲を育む。 防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練を実施する。 養護教諭、担任の連携を強化する。			

保健厚生部	快適で安全な環境づくり 保健管理の充実	教室環境の整備(清掃用ロッカー、扇風機、加湿器等の管理・整備)清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて、環境美化を図る。 日頃から健康相談等がしやすい環境づくりに努め、担任、教科担当者、管理職、保護者と連携を密に図る。			
	生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送る支援の充実 健康診断の円滑な実施 教育相談の充実 環境整備の励行及び充実	各健康診断を学校医・学校歯科医と連携しながら適切に実施し、生徒の健康状態を速やかに把握する。 健康だより、掲示物を作成し、生徒が主体的に心身の健康管理ができる力の醸成を図る。 担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。			
	具体的目標	具体的方策			次年度への主な課題
事務部	個人情報の管理の徹底	業務上取り扱う教職員、生徒の個人情報について情報の漏洩等がないように管理を徹底する			
	施設設備の適正な管理	事務職員と他の教職員との連携を密にし、施設等の修理などの対応を適正に行う。事故等の発生を防止する観点から校内巡視等を適宜実施する			
	業務の見直しを適宜行い、仕事の効率化を図る	業務上で改善すべき事項があると感じられた場合には、職員間で意思疎通を図り、改善に努める。			
中学国語科	基礎学力の向上に努める。	辞書を引く習慣を身につけさせ、教科書の内容を充分理解できるだけの力を修得させる。			
	自学自習の習慣を徹底させる。	家庭や学生寮においても自学自習の必要性を理解させ、基礎学力の定着を計る。			
	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす。	グループワークやディベートを授業の中に積極的に取り入れ、論理的思考力を向上させる。			
	指導方法の工夫改善に努め、授業を軸とした基礎学力の定着を図る	生徒の適性に基づき授業を実施し、授業を軸とした学習サイクルを確立することで、基礎学力の定着を図る			

中学社会科	興味関心を持つような指導を行っていく	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考查等を実践する。			
	学力の向上を目指す	教科間で連携をとり、大学入試に対応できる発展的学力の育成を目指す。「主体的・対話的で深い学び」を実現する。進路を実現するための実力を養成する			
中学数学科	基礎学力の定着	授業ノートの点検や、補助教材を活用し基礎学力の定着を図る			
	基礎学力の向上	毎週小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。			
	数学的考察力の強化	学習した内容を用いて、様々な発展問題に取り組ませる			
中学理科	基礎学力の向上を図る	授業内容を自然現象や生活体験に関連付けして、興味や関心を深め、理解度を高める。			
	観察・実験を通して、理科的な探究活動を行う。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。			
	自然科学に対する関心を高める。	観察・実験やデジタルコンテンツを積極的に取り入れてイメージを捉えやすくし、時事問題などに関連付けをし、生徒の興味・関心を喚起する。			
中学外国語科	基礎学力の向上を図る	小テスト等を実施して、段階に応じた知識・技能の定着を図り、学習意欲の向上につなげる。			
	各種外国語検定の取得を促す	4技能定着の動機づけとして外部民間の技能検定の受検を促し、学力の向上を図る。			
	分かりやすい授業を展開する	各言語の理解度に応じて、画一的ではない個に応じた授業展開を目指す。			
中学保健体育	運動や健康・安全についての理解	運動や健康・安全についての理解を深め、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。			
	運動に親しむ資質や能力を育てる	運動に親しむことで明るく豊かな生活を営む態度を育てよう努める。			

中学芸術	芸術表現の多様性を理解する	音楽・美術の中に細分化された表現方法があることを理解できるような授業展開を行う。			
	芸術に親しむ態度を養う	古典作品から現代作品まで幅広い作品を鑑賞することで、芸術を愛好する心情を育てるとともに、これらに親しんでいく態度を養う。			
	(音)表現技能の習得 (美)個々の表現力を高め創意工夫する態度の育成	(音)種々の楽器に触れることで創意工夫のある演奏技能が習得できる環境を提供する。 (美)美術作品の良さを理解することで、表現技法を学び、創意工夫し、主体的に作品制作に臨む態度を育てる。			
中学家庭科	基礎的な知識と技術の習得	社会生活に必要な基礎的知識を体系的に積み上げて習得できるようにする。			
	多様な生活様式への理解	本校の特徴でもある異文化の生活様式を知り、興味関心の視野を広げるようにする。			
	環境整備に努める	学習環境を清潔・適正に管理できるようにする。			
中学技術科	生活に必要な知識及び技術の習得	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てよう努める。			
	実践的・体験的な学習活動	ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動を通して、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てよう努める。			

2025(令和7)年度 青丘学院つくば高等学校自己評価表

目指す 学校像	激しく進化・変化する社会の流れに対し自ら考え、適応できる人間力を育てる学校。 日本語・韓国語・英語の三か国語を自在に使いこなせるようにし国際的に活躍できる、ひいては日韓交流の掛け橋となるグローバルな人材を育てる学校			
三つの方針		具体的目標	評価	次年度への主な課題
「三つの 方針」 スクール ポリシー	「育成を目指す資質・ 能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自己のアイデンティティを尊重する礼儀正しく、高い道徳心と克己心を備えた人間の育成。国際的にも活躍できるバランス感覚の優れた人間力の育成		自己理解を深めさせる幅広い意識づけが必要である
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	教育課程を基にし、基礎学力から応用力・探究心を育成しつつ難関・医系大学のみならず多様な進路希望を実現する		生徒個々の希望に更に寄り添えるような対応が必要である
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	視野が広く、諸外国の文化理解に積極的であり、かつ自己の進路実現に対し能動的に行動できる生徒		県内の学校への多放免的な広報活動が必要である
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
		1 生徒の主体的な学習を促す 授業による「学力」の向上	(1) 生徒個々の学力・進路希望に応じて適切な指導を行う。 (2) 教員の指導方法の工夫・改善を図り、分かりやすい授業を展開する。 (3) 英検や漢検、TOPIK、JLPT等の資格取得を通して実践的な学力を高め、進路希望を実現する。	
		2 進路希望の実現 多様な進路選択をサポート するきめ細かい指導の充実	(1) 課外や模試を計画的に実施し事後指導も適宜行う。 (2) 進路講演会、大学見学等進路実現に必要な機会を作る。 (3) 人生設計力を育て生徒の視野の拡充と意欲を高める。 (4) プレゼンテーションの積極的参加を促し発出力を高める。	
		3 基本的生活習慣の確立と 規範意識の定着	(1) いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。 (2) 情報を共有し生徒が孤立しない環境づくりに努める。 (3) 学生寮と連携して基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (4) 教員は人権に関する認識を深め、生徒の人権を尊重する。	
		4 特別活動、HR活動、各種行事等の主体的参加を促し、 学校生活を豊かにする	(1) HR活動を通して集団の一員であることに誇りをもたせる。 (2) 特別活動や各種行事を通して帰属意識の養成を図り、自己の存在意義を涵養させる。 (3) 各種活動を活発化させ、自己肯定感を高めさせる。	

学校評価項目

令和7(2025年)度用 高等学校用です。

	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
高等学校1年	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活をし、しっかりとした学校生活が送れるよう指導する。			
	進路選択力を高める	進路意識を高めるために将来設計を立てたり、進路相談会参加やオープンキャンパスへの参加、卒業生の話を聞く会などを実施する。			
	保護者(家庭)との連携	寮生活をしている生徒が多いため、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努める。			
高等学校2年	学級運営の充実を図る。	学級目標を設定し達成できるようにする。また、そのために組織的な運営に努める。 学校行事等に生徒が積極的に参加できるような環境をつくる。			
	進路選択力を高める	進路意識を高めるために将来設計を立てたり、進路相談会参加やオープンキャンパスへの参加、卒業生の話を聞く会などを実施する。			
	保護者(家庭)との連携	寮生活をしている生徒が多いため、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努める。			
高等学校3年	学級運営の充実を図る。	学級目標を設定し達成できるようにする。また、そのために組織的な運営に努める。 学校行事等に生徒が積極的に参加できるような環境をつくる。			
	個々に応じた進路の決定を図る。	進路指導部と連携して志望校を早期に決定させ、時宜に応じた受験対策を進める。			
	保護者(家庭)との連携	寮生活をしている生徒が多いため、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努める。			
	教育業務の円滑化を図る	各教員・各分掌との連携調整を行いながら、年間行事計画を作成する、各学年の目標を作成する、合的な学習の時間・総合的な探究の時間の目標を作成するなど学校運営が円滑に進むよう環境づくりに努める。			

教務部	教員の教育力の向上を目指す	最新の教育事情について周知し、それに沿って指導計画(シラバスなど)の作成・評価を行う、研究授業の実施、外部の講演会・研究会への参加を行促す、公開授業(内部・外部)を行う等の試みを通して教員の質的向上に努める。			
	生徒にとって効果的な成績評価を行う	わかる授業・個に応じた指導など、授業の改善を図るとともに観点(学習の3要素)を明確にして、評価が適切に行われるようにする。生徒の実情(言語など)に配慮した評価が行われるよう教員間で共通理解を得る。			
総務部	各式典を滞りなく実施する	入学式・卒業証書授与式は前もって綿密な計画を立て、役割分担に基づいて実施する。始業・終業式では節目となることを意識して厳粛に行う。			
	各行事を滞りなく実施する	各種行事は前もって綿密な計画を立て、対外(講師等)交渉を含め役割分担に基づいて実施する。			
	奨学金業務を遅滞なく行う	必要とする生徒に対し、告知から授与決定まで順を追って確認しながら行う。			
入試募集部	年間募集計画にしたがった募集活動を図る。	学校案内作成・学校訪問及び塾訪問計画・説明会等の日程調整を早期に行い、募集活動の円滑化を図る。			
	志願者及び入学者の増加を目的とした募集活動を行う。	保護者・生徒向け、学校向けのアピールポイントを探り、認知度をあげるよう努める。			
	教職員一体となつての生徒募集活動を行う。	入試部を中心に外回りは試験中の午後全員が出るなど全員体制で行う。			
生徒指導部	いじめ防止対策の徹底	生徒との日常のコミュニケーション、面談、アンケート等を定期的に行い、いじめ未然防止に努め、いじめが発生した際は、早期発見、早期対応できるよう組織的に迅速な対応に努める。			
	関係機関との連携の強化	警察、保健所、その他関係機関との連携を強化し、交通安全指導、薬物乱用防止指導、情報モラル指導、AED講習会等の充実を図る。			

進路指導部	生徒の進路実現を図る	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人の キャリア 発達を促す。各学年と連携して、生徒の適性の把握に努めるとともに生徒との進路相談等を実施し、生徒の進路実現を支援する。			
	適切な進路指導を目指す	進路研究会や進路情報交換会に参加し、進路情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に進路情報の提供を行う。 大学説明会や進路研究会等に参加することで、各大学の入試の変更点や新課程入試等についての情報を収集し、生徒・保護者に提供する			
	各大学の情報を収集し 生徒・保護者に情報を提供する	大学合格者数等進路大学合格者数等進路に関する統計をもとに進路要覧を作成することで、本校の進路状況を生徒・保護者に提供 する。			
保健厚生部	学校年間計画の作成 心身の健康管理能力の育成 防災・避難訓練の充実 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身に付けさせる。	保健管理、保健教育、組織活動の項目に分け作成する。 定期健康診断や保健学習を計画的に実施する。 心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする意欲を育む。 防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練を実施する。			
	快適で安全な環境づくり 保健管理の充実	教室環境の整備(清掃用ロッカー、扇風機、加湿器等の管理・整備)清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて、環境美化を図る。 日頃から健康相談等がしやすい環境づくりに努め、担任、教科担当者、管理職、保護者と連携を密に図る。			
	生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送る支援の充実 健康診断の円滑な実施 教育相談の充実 環境整備の励行及び充実	各健康診断を学校医・学校歯科医と連携しながら適切に実施し、生徒の健康状態を速やかに把握する。 健康だより、掲示物を作成し、生徒が主体的に心身の健康管理ができる力の醸成を図る。 担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。			

	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
事務部	個人情報の管理の徹底	業務上取り扱う教職員、生徒の個人情報について情報の漏洩等がないように管理を徹底する			
	施設設備の適正な管理	事務職員と他の教職員との連携を密にし、施設等の修理などの対応を適正に行う。事故等の発生を防止する観点から校内巡視等を適宜実施する			
	業務の見直しを適宜行い、仕事の効率化を図る	業務上で改善すべき事項があると感じられた場合には、職員間で意思疎通を図り、改善に努める			
高校国語科	進路実現のために必要事項を自覚させ、実力養成をさせる。	評論の読解力や小説の心理理解のために、授業中に生徒間の意見交換を充実させるなど授業の活発化を目指す。課題に取り組ませ、家庭学習の習慣を根付かせる。			
	古文・漢文の読解力を向上させる。	共通テストの、古典分野を見据えた実力の向上を意識した授業展開にも対応できるよう能力を高めさせる。予習復習の必要性を理解させる。			
	進路実現のための具体的目標の設定。	授業時間以外の日常的な学習時間を確保し、進路に対する真摯さを確立させる。			
高校社会科	言語を超えた学習を身に着ける	言語の壁を越えた授業展開を考える。教科書準拠の辞書作成等			
	思考力を高める授業を目指す	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考查等を実践する			
	大学入試に対応できる学力を身に着ける	歴史的・地理的事象に関心をもち、国際社会の変化に対応できる知識を身に付ける。歴史的事象を複眼的に考察し、因果関係を考えさせる。地図や資料を活用し、地理的特徴を把握させる。現代の国際社会における政治経済の仕組みを理解させる。現代社会の諸問題を考察し、主権者として主体的に、よりよい生き方を追求する。			
高校数学科	基礎学力の向上	少人数授業によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明らかにし、基礎学力の向上を図る。			
	数学的考察力の強化	学習した内容を用いて、様々な発展問題に取り組ませる。			

	自発的な学習活動の強化	自ら課題を探究し、その解決法を研究するなど、自発的な学習活動を身につけさせる。			
高校情報科	基礎学力の向上	少人数授業によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明らかにし、基礎学力の向上を図			
	プログラム考察力の強化	学習した内容を用いて、様々な発展問題に取り組ませる。			
	自発的な学習活動の強化	自ら課題を探究し、その解決法を研究するなど、自発的な学習活動を身につけさせる。			
高校理科	思考・判断・表現の向上	ICTを活用し、発問、生徒の思考・判断・表現する場面を促す。			
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割及び環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。			
	学力の向上	基礎的な知識を確実に習得し、さらに応用的な内容についてもしっかりと理解できるような授業を展開し、学力向上を図る。			
高校外国語科	基礎力の更なる向上を図る	家庭学習の定着指導と併せ、復習を徹底し基礎的知識の向上を図る。			
	4技能の定着を図る	民間の外国語検定の受検を一つの契機として4技能の定着を確かなものにする。			
	進路に合った授業展開を工夫する	進路に合わせた教材・資料の提供を通して目的別実力の向上を図り進路実現を目指していく。			
高校保健体育	運動の合理的、計画的な実践	知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう努める。			
	自己の状況に応じた体力の向上	体力の向上を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるよう努める。			
	多種多様な音楽文化への理解を深め、音楽に対する感性を豊かにする。	様々なジャンルの音楽を偏りなく鑑賞し、感じたことを自己のアイデンティティに基づき、種々の方法によって主体的に表現する態度を養う。			

高校芸術	美術作品を愛好する心情を育て、創造的な表現ができるようにし、あわせて鑑賞の基本的な能力を身に付けさせる。	生徒一人一人が主体的に課題設定ができるようにし、制作を通して美術的感性を発揮できるように、段階的な指導を行う。			
	生涯にわたり芸術を愛好する豊かな心情を涵養する。	幅広い芸術活動を通して芸術に対する興味関心を高め、生涯にわたって、芸術に触れられるような環境を提供する。			
高校家庭科	基礎的な知識・技術の習得	実習などを通して中学で習得した基礎的な知識をより包括的に社会生活に適応できるような授業を展開する。			
	社会変化に応じた指導を工夫する	変化する現代社会の多様性に対応できるように地域や社会の課題の情報をできるかぎり提供する。			
	主体的な生活を送るための確かな考え方を身につけ、家庭や地域における生活の充実を図る態度を養う。	対話や発表を通して多様な考え方を受け入れながら、自己のアイデンティティに基づいて適切な価値判断ができる力の向上に努める。			